

平成23年度 学校経営計画に対する最終評価報告

				石川県立羽咋工業高等学校	
重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）	
1. 学力向上を図り、資格取得を奨励するとともに企業が求める能力を育成し、生徒の進路志望を実現させる。	① 研究授業の事前・事後の教科研修会や研究協議会、互観授業を充実させ、各教科と学科を核にして学校全体で授業改善に取り組む。	各教科と学科で授業改善についての取組を行った A 各学期に3回以上取り組んだ B 各学期に2回取り組んだ C 各学期に1回取り組んだ D 全く取り組む事ができなかった	教職員対象に 12月にアンケート調査結果 A：26% B：51% C：23% D：0% 評価：A・B合わせて77%	アンケート結果は、A・B合わせて77%となり、中間評価での判定基準ボーダー値70%から改善し、判定基準をクリアした。また、昨年度の最終評価からも10ポイント向上しているが、Cの割合が23%と、全員の複数回の授業改善にまで至っていない現状もあり、今後も改善意識を高めていくよう努力する必要がある。 今年度の研究授業は、1学期に5回、2・3学期に6回実施し、互観授業も昨年より1回増やして全員2回以上とした成果によると思われる。 次年度は「事前事後の研究協議会」を一層充実させるとともに、シラバスの内容改善により授業改善の質を高めていきたい。	
	② 学力向上を図るために授業の課題やレポートの内容・出題を工夫するとともに資格取得も関連付けて学習習慣を身に付けさせる。	課題・レポート・資格取得など授業外の学習活動について A 十分取り組むことができた B おおむね取り組むことができた C あまり取り組むことができなかった D 全く取り組むことができなかった	生徒対象に 12月にアンケート調査結果 A：36% B：49% C：13% D：2% 評価：A・B合わせて85%	アンケート結果は、A・B合わせて85%となり、中間評価での84%から1ポイント改善し、判定基準の75%をクリアした。年間を通した授業課題とレポート提出を課した点と資格取得のための朝・昼・夜の補習の成果であると考えられる。しかし、他の調査項目の家庭学習時間の「ほとんどしなかった」は53%となり昨年比3ポイントの改善にとどまった。 次年度は、今年度の取組をより充実させて、家庭での自発的な学習の習慣付けにつなげるように工夫して、学校全体の学力向上を目指したい。	
	③ 定期考査1週間前より、部活動での学習会や勉強合宿、個別面談・個別指導等を実施させ、学習意欲の向上と時間確保を図る。	部学習会や個別面談等により、学習効果が上がったと感じる生徒が A 80%以上 B 70%以上80%未満 C 60%以上70%未満 D 60%未満	生徒対象に 12月に調査結果 79% 評価：B	部活動の学習会に参加した生徒や部顧問から個別面談された生徒は、3年生を除き141名で1・2年生のうちの61%の生徒である。そのうち、79%の生徒が学習効果が上がったと回答し、中間評価より1ポイント増加した。評価はBであるが限りなくAに近い。 学習する環境を整えたり、意識付けをすることが、生徒の学習意欲と効果上げるために大切であると改めて実感させる結果であり、次年度はより細かな配慮と指導を加え、A評価を目指したい。	
	④ 図書室の利用を促し、調べ学習や読書習慣を身に付けさせる。	2学期末での図書室の延べ利用者数が A 4,000人以上 (1学期末1,500人以上) B 3,500人～3,999人 (1学期末1,400人～) C 3,200人～3,499人 (1学期末1,200人～) D 3,200人未満 (1学期末1,200人未満)	2学期末での延べ利用者数 3,639人 評価：B	2学期中の授業利用回数の減少に加えて、3年生の放課後利用者数が減少し、評価はBであった。しかし、貸出冊数は増加しており、読書に親しむ生徒が増えてきていると言える。次年度も、図書委員による地道な広報活動をさらに工夫・継続し、より多くの生徒に、調べ学習のための図書室・閲覧室利用や読書の楽しさを伝えていきたい。	
	⑤ 希望進路の実現に対する資格取得の説明機会を増やすとともに、課外補習を充実させ資格試験の合格者数を増加させる。	2学期末での資格試験延べ合格者数が学校全体で A 720人以上 B 540人以上 720人未満 C 360人以上 540人未満 D 360人未満	2学期末の資格試験受験結果集計による 評価：B	2学期末の時点で、資格試験の延べ合格者数は705人であった。A評価にはあと15人足りなかった。資格・検定においては比較的簡単に取得できるものから、難易度の高いものまでであるので、各科・各コースにおいて、生徒に取得させたい資格・検定の精選を図り、次年度はそのような資格検定の合格者数の増加を目指したい。	
	⑥ 高度な資格の内容紹介や受験指導を行うとともに、ジュニアマイスターの点数区分を明示し、多くの資格に挑戦する意識付けを行う。	全校のジュニアマイスター認定者数が A 30人以上 B 25人～29人 C 20人～24人 D 19人以下	ジュニアマイスター認定者数は29名 評価：B	今年度は、ゴールド15名（特別表彰2名を含む）、シルバー14名の合計29名である。昨年度は、ゴールド15名、シルバー20名の合わせて35名であった。昨年度との比較において、シルバーの認定者が6名少なくなった。今年度は資格の点数が一部見直され、2年生が規定の点数に達せず認定者の減少につながった。2月中旬以降において3年生の追加申請により4名程度の増加を見込んでいるものの、次年度以降も生徒には積極的に資格を取得させ、認定者の増加を目指したい。	
	⑦ 進路説明会やLHなどで進路に向けた情報提供を行い、また、インターンシップを通して適切な進路選択を促進させる。	進路説明会・LHなどによる説明や配布した進路情報により、意識が高まった生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上90%未満 C 70%以上80%未満 D 70%未満	生徒対象に 12月にアンケート調査結果 意識が高まった生徒92% 評価：A	意識が高まった生徒は、全体で92%であり評価はAである。学年別では、(3年93% 2年88% 1年92%)である。中間評価は、全体で88%であり、意識が高くなっている。1、2年は中間評価よりも6ポイント、9ポイント上がっている。進路意識を早い時期から、継続させていくことが自己実現には大切である。次年度は、進路指導室を有効に使い進路資料の活用方法や、進路面談等でより細かな対応を考えていきたい。	
	⑧ 進路希望の達成のために指導の充実を図る。 ・基礎学力の定着を図り、試験対策を十分に行う。 ・外部講師による講演や面接指導、担任による個別面談を充実させる。	学力テストや面接指導等により、実力がついた割合が A 90%以上 B 80%以上90%未満 C 70%以上80%未満 D 70%未満 民間就職試験の第1回目試験での内定率が A 90%以上 B 80%以上90%未満 C 70%以上80%未満 D 70%未満	3年生を対象に 12月にアンケート調査結果 評価：A 3年生を対象に秋に調査 63名受験し、56名内定 (内定率88.9%) 評価：B	実力がついたと思う生徒は、91%であった。評価はAである。前年度より5ポイント上がっている。SHでの朝学習、月1回の作文添削で基礎学力を見直し、表現力もつけさせた。7月からは、面接指導を試験まで繰り返し行ってきた。今年度も、2年生には学年会と協力し、基礎問題演習や作文練習の取組を行っており、次年度も継続して力をつけさせたい。 評価は、Bである。求人件数は、リーマンショックから少しずつ立ち直りつつあり、3月の大震災や欧州の経済不安の影響もあったが、地元製造業をはじめ増加傾向であった。本校は、地元企業を中心に、早くから企業と連絡を密にし、早めの対応を行ってきた。また、生徒には面接練習を中心として受験対策に取り組ませてきた。年内には、学校幹旋希望者全員の内定を得た。次年度は、準備不足の生徒に対しては、普段の手篤い指導をより一層充実させ、早い時期からの準備で計画的に対応して内定数を増やしたい。	
学校関係者評価委員会の評価					
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策					

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
2: 部活動を活性化させ、人間性に富み、心身ともに健全で逞しい人づくりをめざす。	①: 本校の運動部は、県高校総体・新人大会でベスト8以上、高体連表彰取賞獲得を目指す。	ベスト8以上の運動部が A 50%以上（9部以上） B 40%以上50%未満（7～8部） C 30%以上40%未満（6部） D 30%未満（5部）	県総体と県新人の結果 ベスト8以上を獲得した部の数 11部 評価：A	11月実施の新人大会ではベスト8以上の成績をおさめた運動部は9部である。新人大会で新たにベスト8以上の成績をおさめた運動部は4部で、大きく躍進した。これに本年度総体・新人大会でベスト8以上の成績を獲得した運動部は、全部で11部になった。 本年度は高体連表彰取賞は逃したが、次年度の総体では9部以上がベスト8以上の成績を獲得することを目標に、不断の努力を重ねるよう働きかけをしていきたい。
	②: 文化部において、部の重複加入を奨励し、学校祭以外にも校内外での発表・展示・公開の機会をさらに増加させる。	学校祭以外で発表、展示、公開練習等の機会を持った回数が、 A 7回以上 B 5～6回 C 3～4回 D 2回以下	各文化部対象に 12月に調査結果 A 30% B 40% C 10% D 20% 評価：A・B合わせて70%	文化部13部のうち、部員が定期的に活動している部活動は10部。昨年度よりも評価基準を上げたが、どの部も工夫してさらに回数を増やしている。校内の廊下の目立つところに、書道部、写真部、華道部の生徒の作品がよく展示され、部員もより意欲的に取り組んでいる。コンピュータ部は「もの作り教室」を校外で開催し、たいへん好評である。 次年度も引き続き、各部がより意欲的に活動するよう働きかけていきたい。
	③: 生徒会が中心となり、行事への参画意識を高め、自主的に参加する行事にする。	生徒会行事に満足していますか A たいへん満足した B おおむね満足した C あまり満足できなかった D まったく満足できなかった	生徒対象に 1月にアンケート調査結果 A 26% B 58% C 13% D 3% 評価：A・B合わせて84%	どの生徒会行事も生徒会が自発的に運営し、より良いものになろうという意識が高く、前回の反省を参考に工夫されていたため生徒の満足度は高い値であった。特に、羽工祭では94%の生徒が「満足している」と回答した。 次年度もさらに工夫を重ね、生徒の意見を取り入れ、引き続き取り組んでいきたい。
	④: 精神的な悩みを持つ生徒に対して、学年、課が連携し組織的に支援する。	精神的な悩みを持つ生徒に対する職員の支援が A よく行われている B おおむね行われている C あまり行われていない D まったく行われていない	教員対象に 12月にアンケート調査結果 A 36% B 47% C 17% D 0% 評価：A・B合わせて83%	A・B合わせて80%以下の場合は再検討という判定基準だったが、A・B合わせて83%で、支援体制はおおむね機能していると言える。悩みを持つ生徒に対しては、担任をはじめ、関係する職員が対応し情報交換を密に行い、他の職員へ情報提供をし、対処した。次年度も、気になる生徒を継続して見守りつつ、新たに悩みを持つ生徒にも対応していく必要がある。学年や課における情報交換を密にして、組織的連携をさらに深めていきたい。
学校関係者評価委員会の評価				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策				

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
3: 奉仕活動等を通じて地域社会との連携を深め、環境保全や社会貢献に対する意識を高める。	①: 社会に貢献する大切さや必要性を認識するために、1日1善運動を校外にも推奨する。	1日1善運動について A 毎日必ず実践している B できるだけ実践している C あまり実践していない D 全く実践していない	生徒対象に 2月にアンケート調査結果 A 21% B 60% C 17% D 2% 評価: A・B合わせて81%	アンケート結果ではA・B合わせて81%であり、中間評価の74%よりも7ポイントも上昇している。 生徒会からの呼びかけや昼食時間の「1日1善放送」などの取組が、着実に生徒達の心に届き、根付いてきているものと窺える。 今後もこの取組についてより良くするため、さらに生徒・職員の意見を取り入れ発展させていきたい。
	②: 社会生活を営む上で、ルールやマナーの必要性を説き、認識させる指導により、マナーと交通ルールを遵守する生徒を育てる。	自分自身の自転車乗車ルール（規則）について A ルールを守り安全に運転している B ルールをある程度守り運転している C ルールをあまり守らず運転している D ルールを守らず運転している	生徒対象に 12月にアンケート調査結果 A 30% B 55% C 12% D 3% 評価: A・B合わせて85%	第2回目のアンケートではA・B合わせて85%であり、昨年の最終結果（81%）と比較すると生徒の交通ルールに対する意識が向上していることが伺える。しかし交通規則を守る事は当然であるが、生活の慣れからくる気の緩み、認識の甘さから交通ルールを遵守する意識が低い。次年度は生活態度や命の大切さの意識を高く持てるよう交通講話、全校集会、学年集会、LH等を通して注意を促し、学年団と課の連携を図りながらより一層組織的に取り組んでいく必要がある。
	③: Webページの更新を定期的に行って学校の活動状況を発信し、情報公開に努める。	ホームページを更新した回数が A 20回以上 B 15回以上20回未満 C 10回以上15回未満 D 10回未満	各担当・各部対象に 1月に調査結果 更新回数: 30回 評価: A	1月末までのWebページ更新回数が30回となり、昨年度より大幅に新しい情報発信をおこなうことができた。Webページ作成方法の簡略化や、各種行事が多い2学期の積極的な更新に加え、「魅力ある県立学校づくり推進事業」に関する更新が重なり、更新回数を増やすことができたと考えられる。その反面、各部活動の状況発信が一部にとどまり、本校の魅力が十分に発信できていないことが課題として浮き彫りとなった。 次年度は判定基準を見直し、各部活動へもタイムリーな情報発信を働きかけ、学校全体の情報公開のスピードを上げたい。また、アクセス数が増加するようなトップページを作成し、更新状況もよりわかりやすくなるように改善したい。
	④: 環境保全についてはこれまでの取組を萎えさせることなく職員・生徒が理解を一層深め、特にゴミの分別等が正しくおこなわれているか評価することを試みる。	15点以上の教室が A 80%以上 B 70%以上80%未満 C 60%以上70%未満 D 60%未満	ISO委員により 6月、10月、2月に各教室を1週間調査し1日20点満点で評価する。 平均点最高クラス: 19点 平均点最低クラス: 18点 全クラスが15点以上 評価: A	第2回目、第3回目ともに全体の平均点は19.4であり、第1回目の全体の平均点18.6を大きく上回った。第2回目と第3回目の全体の平均点は同じであるが、クラス別平均点で見ると第2回目の平均点が19点を下回るクラスが2クラスあったのに対して、第3回目は1クラスで、同じ平均値であっても第3回目の方がより動機づけができてきていると考えられる。今年度初めて取り組んだ取組のため評価基準が甘かった面も考えられるが、次年度は評価項目・基準の見直し、さらにゴミを出さない意識づくりを付け加えて引き続き取り組んでいきたい。
学校関係者評価委員会の評価				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策				